

サマーディクライン対策

G's-Suppressor

硝酸爆発とは?...

窒素肥料を与えた場合、土壌細菌の働きによりアンモニア⇒亜硝酸⇒硝酸へと変化して芝生に吸収されます。アンモニアは+イオンで存在するため、土壌コロイド(-イオンに帯電)に吸着・保持される事で、植物が吸収したい窒素養分だけ選択的に体内に取り込みますが、硝酸になると-イオンになってしまうため、土壌コロイド(-イオン)では保持されず、流出もしくは水と一緒に非選択的に植物体内に取り込まれる性質があります。

では、硝酸が非選択的に植物体内に取り込まれるとどうなるのでしょうか?光合成で作られる糖の生産を超える硝酸が体内に送り込まれた場合、窒素同化できず(アミノ酸やタンパク質になれない)、軟弱徒長して軸が上がり病害虫の感染リスクが急激に上昇します。

非選択性硝酸吸収リスクが特に高くなるのは、地温が上昇し亜硝酸化成菌・硝酸化成菌が活性する梅雨期から夏期にかけてとなります。春期に散布して効かなかった残留窒素や未分解有機物(サッチ)が亜硝酸化成菌や硝酸化成菌の活性化によりこの時期に急激に硝酸化し、梅雨時期の長雨、夏期のゲリラ豪雨など水と一緒に非選択的に植物体内に流入してきます。

特にベントグラスの場合は、梅雨時期は日照不足により光合成による糖の生産は急激に低下していますし、夏期は高温と強すぎる日照のために糖の生産は低下しています。糖生産の少ない状況下で多くの硝酸が吸収されるとどうなるのでしょうか?植物はアンモニアと光合成産物の糖を利用して、アミノ酸⇒タンパク質を作るのですが、植物体内で硝酸⇒亜硝酸⇒アンモニアと変化する過程においてもエネルギーである糖(不足分は貯蔵分のフルクタンから)が消費されます。

つまり、梅雨期から夏期にかけての非選択性硝酸の流入はベントグラスの夏越しに際してマイナスに働き、サマーディクラインシンドロームの大きな要因となることは容易に理解できると思います。

サマーディクライン対策

- ★梅雨期から夏期はG's-suppressorで亜硝酸化成菌・硝酸化成菌の活動を抑制する。
- ★梅雨期から夏期にかけては窒素肥料を控え、低分子アミノ酸の反復散布で凌ぐ。
- ★光合成が低下する梅雨期の日照不足や夏期高温時は低分子の有機酸で糖補給する。
- ★梅雨期までに未分解有機物(サッチ)を酵素で分解する。
- ★補酵素資材で光合成(炭酸同化)や窒素同化を円滑にさせる。
- ★ケイ酸資材で茎葉を強健にし、不要な蒸発散を抑える。
- ★土壌中が酸欠による嫌気状態にならないよう、更新作業時に活性炭を散布する。



サマーディクライン対応資材

- ①夏の活緑(夏用低分子アミノ酸+有機酸+グルタチオン+核酸など)
- ②有機酸一番搾り(日照不足や高温時の糖補給)
- ③ブンカイザー(サッチ分解促進=土壌還元窒素の流入阻止 3月~5月・9月~11月)
- ④バイオHG(茎葉強健・徒長抑制)
- ⑤Dr.芝用補酵素(光合成活性・窒素同化補酵素・病害抑制・苔藻抑制)
- ⑥G's-Oxi(活性炭による土壌への酸素供給)

<G's-Suppressore とは?>

G's-suppressor は硝酸化成抑制剤を独自の配合で製品化した資材です。

<G's-Suppressore の成分>

成分：グアニルチオウレア+ジシアンジアミド+有機酸+トレハロース(補助剤)

<G's-Suppressore の使用量>

使用量	0.5g/m ²	6月~8月 月2回
散布水量	200cc/m ²	

製造販売

株式会社  **G-stage**

〒841-0075

佐賀県鳥栖市立石町2066-2

TEL:0942-83-0859

取扱店



株式会社クルーガー

〒305-0035 茨城県つくば市松代 3-17-33

TEL 029-886-5001

FAX 029-886-5003

